

第39回香川県環境審議会計画部会議事録

平成27年1月14日（水）

日 時	平成27年1月14日(水) 午後1時30分～午後3時45分
場 所	県庁本館 12階 大会議室
出席者	<p style="text-align: center;">香川県環境審議会委員(11名)</p> <p>委員 綾 婦 美 子 香川県商工会議所女性会連合会副会長 委員 石 川 恭 子 高松リビング新聞社編集長 委員 勝 浦 敬 子 NPOグリーンコンシューマー高松代表 委員 金 子 之 史 香川大学名誉教授 委員 久 米 川 啓 香川県医師会会長 委員 栗 田 隆 義 香川県町村会会長 委員 妹 尾 理 子 香川大学教育学部教授 委員 竹 内 麗 子 香川県各種助成団体協議会会長 委員 中 須 純 子 香川県女性校長・教頭の会会長 委員 増 田 拓 朗 香川大学名誉教授 委員 松 本 タ ミ 弁護士</p> <p style="text-align: center;">事務局(21名)</p> <p>環境森林部 部長 川田 浩司 次長 大山 智</p> <p>環境政策課 課長 秋山 俊次 副課長 豊島 貴子 課長補佐 白井 秀信 課長補佐 川田 昭子 課長補佐 久保 雅紀雄 副主幹 藤井 克昭 副主幹 山本 英幹 主任 河内 由香 主事 佐伯 健太</p> <p>環境管理課 課長 今雪 良智</p> <p>みどり保全課 課長 大石 泰輔 課長補佐 高尾 勇一郎</p> <p>廃棄物対策課 課長 三好 謙一 副課長 安富 宏明 課長補佐 池田 浩史 課長補佐 新名 英明</p>

	みどり整備課 課長 杉山 綱敏 課長補佐 穴吹 浩之 副主幹 佐々木 敬介
欠席委員	委員 三原典子 J A香川県女性部部長
議 題	(1) 次期計画の策定方針（案）について (2) 今後の審議スケジュールについて（予定） (3) 現状と課題及び指標の推移について ①香川県環境基本計画 ②香川県地球温暖化対策推進計画 ③香川県廃棄物処理計画
配布資料	(1) 第39回香川県環境審議会計画部会次第 (2) 香川県環境審議会計画部会委員名簿 (3) 香川県環境基本計画の策定について（諮問）（写） (4) 第39回香川県環境審議会計画部会出席者名簿 (5) 資料1 次期計画の策定方針（案）について (6) 資料2 今後の審議スケジュールについて（予定） (7) 資料3 香川県環境基本計画に基づく施策の実施状況について (8) 資料4 香川県地球温暖化対策推進計画に基づく施策の実施状況について (9) 資料5 香川県廃棄物処理計画に基づく施策の実施状況について (10) 資料6 数値目標の達成状況 (11) 資料7 平成26年度県政世論調査結果
会 議 録 署名委員	綾 婦美子 委員 石川 恭子 委員
議事の概要	議題(1)について 「香川県環境基本計画」、「香川県地球温暖化対策推進計画」及び「香川県廃棄物処理計画」の次期計画の策定方針について説明した。 議題(2)について 今後の環境審議会計画部会及び全体会の審議スケジュールについて説明した。

議題(3)について

「香川県環境基本計画」、「香川県地球温暖化対策推進計画」及び「香川県廃棄物処理計画」に基づく施策の実施状況から、現状と課題及び指標の推移について説明するとともに「平成 26 年度県政世論調査結果」について報告した。

第39回 香川県環境審議会計画部会 議事概要

<p>司会 (豊島副課長)</p>	<p>お待たせいたしました。ただ今から、第39回香川県環境審議会計画部会を開催させていただきます。</p>
	<p>開会に当たりまして、川田環境森林部長から御挨拶を申し上げます。</p>
<p>川田部長</p>	<p>(部長あいさつ)</p>
<p>司会 (豊島副課長)</p>	<p>引き続きまして、増田部会長から御挨拶いただきたいと存じます。</p>
<p>増田部会長</p>	<p>(部会長あいさつ)</p>
<p>司会 (豊島副課長)</p>	<p>それでは、申し遅れましたが、私は、環境政策課の豊島と申します。</p> <p>本日の会議の進行をさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、本日、御出席いただいております委員の皆様方の御紹介をすべきところでございますが、時間の都合上、名簿をお配りさせていただいておりますのでこの名簿での紹介に代えさせていただきたいと思っております。</p> <p>また、本日は御都合により、JA香川県女性部部長の三原典子委員が、御欠席でございます。</p> <p>なお、本日御出席いただいております委員は、12名中11名で、香川県環境審議会条例第7条第2項に定められております、委員の2分の1以上の出席という、開会の定足数を満たしておりますことを御報告申し上げます。</p> <p>それでは、これからの議事の進行につきましては、環境審議会条例第7条第1項の規定により、増田部会長に議長として議事進行していただきたいと存じます。</p>
<p>増田部会長</p>	<p>それでは、私の方で会議を進めさせていただきます。</p> <p>まず、議事に入ります前に、本審議会運営規程第4条第2項により、本日の会議録に署名していただく委員を指名させていただきます。</p> <p>綾委員と石川委員に、本日の議事録の署名をお願いします。</p> <p>(綾委員、石川委員了解)</p> <p>それでは、議事に入りたいと思っております。</p> <p>本日の議題は、平成26年12月11日付けで知事から当審議会に諮問を受けました、環境基本計画、地球温暖化対策推進計画、廃棄物処理計画の策定に関する次期計画の策定方針案と今後の審議スケジュール、それらの計画に基づく施策の実施状況の現状と課題、指標の推移についてでございます。</p> <p>これらにつきまして、事務局から説明をお願いします。</p>

事務局	<p>(大山次長より次期計画の策定方針、今後の審議スケジュール、数値目標の達成状況、平成 26 年度県政世論調査結果、香川県環境基本計画に基づく施策の実施状況について説明)</p> <p>(秋山環境政策課長より香川県地球温暖化対策推進計画に基づく施策の実施状況について説明)</p> <p>(三好廃棄物対策課長より香川県廃棄物処理計画に基づく施策の実施状況について説明)</p>
増田部会長	<p>ありがとうございました。現行計画の現状や進捗状況等について、事務局から御説明をいただきました。</p> <p>これにつきまして、次期計画の策定に向けて、委員の皆様から御質問、御意見をいただきたいと思います。</p>
金子委員	<p>文章表現上の問題ですが、環境基本計画の地球温暖化対策の推進の現状欄で、公共交通機関の利用者数は伸び悩んでいる、その下の欄にも住宅用太陽光発電システムの設置件数が伸び悩んでいる、伸び悩んでいるという言葉が他の所でも出てくるんですが、伸びていないというのが、事実の言葉だと思うんですね。悩んでいるという言葉をつけると、主体の心情までが表現されてしまう訳で、こういう場合は、事実として表現された方がいいのかなという感じがします。</p> <p>それから環境指標に関して、各年度ごとの数値がでてきている訳ですけど、この数値を評価する場合、表になって出てくるよりも、横軸に年度をとって、縦軸にその数値のポイントをプロットして、それがどういう傾向性をもっているのか、右下がりであるとか、右上がりであるとか、途中が上がっているとか。そして、平成 27 年度の目標数値があるんですけども、目標数値というのがその直線の延長線上にくるのであれば、その目標数値が、それなりの適正度をもっていただと思うんです。直線上にあるということは、従来の行政の取組みをそのままある程度進めていけば、目標の達成は可能であるという判断ができると思うんですけど、直線からより高いとか低いとかということになってくると行政の取組みが従来とは少し違った質をもたないといけないと思うんですね。そういうことを評価するには、数字だけではなくて、グラフ化して、変化の傾向を読み取るような形で御提示いただければありがたいかなと思いました。</p>
増田部会長	<p>例えば、グラフで、それが達成できるか、無理だということが見た目にわかりやすくして欲しいということですね。</p>
金子委員	<p>そういうことです。それから、前の全体会でもごみの問題について、質問をさせていただいたんですけども、資料の 5 の 6 ページの左側のリサイクル率の推移の図ですが、香川県は平成 23 年度と 24 年度で、全国平均よりも少し下がっているという結果が出ている訳ですが、これについて、民間の店頭回収の</p>

	<p>データが把握されていないというなお話しになったと思うんです。逆に考えると香川県では、民間の店頭回収率が、他の県よりも多くなるというような理由が考えられるのかな。こういう問題は、商売だからある程度基本的に万遍なく各地方で行われるだろうと考えると、香川県が特異的に民間の店頭回収率が多くなっているというのが本当なのかと少し疑問を感じました。その問題と関係して、資料5の7ページですが、香川県の1人1日当たりごみ排出量とリサイクル率が出ておりますが、これを見ると、市町毎の違いが特異的に出ているんです。多いのが土庄町、小豆島町、直島町ですが、私はそれぞれの市町について、何か特別なことを言うつもりは全然ありませんが、この3町は島ですよ。島であるということがリサイクル率においても、直島町は少し高いですが、土庄町、小豆島町は、リサイクル率が非常に低い。島であるということがある程度関係しているんだとすれば、今後の課題を検討していくときに、何かヒントになるのかなと思います。ここで、島での生活によって出てくる問題があるのであれば、それを御検討いただけたらと思いました。以上です。</p>
増田部会長	<p>ありがとうございました。</p>
大山次長	<p>御指摘ありがとうございました。指標についてのグラフ化につきましては、確かに委員のおっしゃるとおり見易さという面がありますので、次回の時までにはグラフ化した資料を準備させていただきたいと思います。</p> <p>それとリサイクル率の全国との逆転の問題は、少し分からない面はあるのであくまで推測なんですけど、香川県では大規模小売店舗の面積、店舗数が全国に比べますと非常に多いという統計数字はあったと思いますので、その辺のことが影響しているのかも知れません。</p> <p>市町毎に、島の問題を含めてという点は、御指摘を踏まえて、今後、検討をさせていただきたいと思います。以上です。</p>
秋山環境政策課長	<p>伸び悩んでいるという表現についてでございますが、これにつきましては、増加をしているんだけど、増加率が減少しているといった場合に、こういう表現をしておりますが、検討して、より適切な表現にしていきたいと考えております。</p>
川田部長	<p>先程の島の話なんですけれども、ごみの収集については、市町によってそれぞれ収集品目が異なっております。土庄町と小豆島町は同じ処理施設で行っております。手元にデータがありませんので、詳しくは分かりませんが、他の自治体と収集の品目が異なっているんだろうと思いますので、そこは確認しようと思います。</p> <p>それから全国でリサイクル率が増えている理由としてはですね、最近、収集したごみを、RDFとかいう固形燃料にするような大型施設ができています。</p>

	<p>ありまして、そういう所ではリサイクル率が非常に高くカウントされるということがあって、そういう大型施設ができるとう率が高くなります。香川県が下がっていることについて、店頭回収により下がっていった面と、両方あるかと思えます。その辺のところを、御指摘の点も踏まえまして、整理してみたいと思っております。</p>
増田部会長	<p>どういうデータで数値化しているか、評価しているのかということがはっきりしないと。民間による店頭回収があるからという、実際、県民の行動としてはリサイクルの方向に行っている訳ですよ。でも見た目が、リサイクル率が下がっているみたいに出てしまう。民間で行っているものを量的に把握できないんですかね。</p>
大山次長	<p>今のところ、統計上はそれが把握できておりませんので、それを何とか把握できるようにしていきたいと考えております。今、現時点では、できないというのが実態でございます。</p>
増田部会長	<p>ですから、そうすると、やはりリサイクル率が下がってきて、実はA評価になるはずのものが、B評価になったりする。評価を行う場合、こういう評価については、こういう課題があり、実際の動向としては、こういう風になっているとか、何かコメントを付した方がいいと思えます。結果だけで評価すると、今の市町のごみ排出量とかの所もそうですね、ごみが島しょ部で多いとかも、多分、回収品目で違いがあるとか、そういう状況もあるかもしれないが、実際の処理としてうまく進む取組みを行っているというか、そういうことが評価できるような表現方法がいいかなと思えます。</p>
大山次長	<p>分かりました。ありがとうございます。</p>
増田部会長	<p>他に、委員の皆さん、次期計画に向けて御意見を申し上げます。 一番最初に説明していただいた県民アンケートですが、その中に満足度と重要度というグラフがございまして、これはこれでいいんですけども、ぱっと見て重要度が高い、低い、満足度が高い、低いということに目が行くんですけども、数字を見ますと、満足度というのは3.3が平均で、2.7から3.8ぐらいに分布していて、4を超える満足度は無いんですね。重要度では、低い、高いとあるんですが、実は一番低いのが3.8を超え、ほとんどが4を超えています。これを1から5という座標で描くと、重要度は4から5の間にある、満足度は3から4の間にあるようなグラフなんです。そのことも書いてあるんですけども、平均値が、ちょうど図の真ん中にきているので、重要度というのは非常に高いところにあり、満足度は3から4で、4を超えるものはなかなかないですよということを示してありますので、そういう風に捉えてい</p>

<p>妹尾委員</p>	<p>ただくのがいいかなと思います。</p> <p>今の意見に続きまして、同じく世論調査のことに関連してですが、例えば 24 ページに瀬戸内海の環境の保全に関する取組みということで、実施に賛成し、効果が高いと思われる取組みを選んでくださいということなのですが、今回は、もうこれで出ているんですけども、次回以降のために、少し疑問に思ったことを申し上げます。8 番の情報提供、広報の充実と 9 番の環境学習の推進というのが非常にシンプルな表現で、一般の方がアンケートに答える場合にどんなことをイメージされるのか、イメージにもものすごく幅があるような気がするんですね。それに対して、1 番、2 番はすごく具体的にどんな内容であるか、どんな例があるとかが書いてあります。やはりイメージが湧いた方ができるとして○をつける可能性が高いと思いますので、こういう差はつけない方がいいのかなと思いました。環境学習であったら、学校教育の中で、例えば、林間学校や修学旅行の中で、具体的に取り上げるとか、推進するとか、そういった中身を入れていただいた方が、今後、活用し易いのかなと思いました。同じように、情報提供というのは一体誰に対してのことなのか、非常に漠然としていますし、情報提供もある意味、環境教育でもあると思いますので、その区別が非常に曖昧だなと思いました。それを今後のことで、留意していただけたらと思いました。</p> <p>資料 4 の 3 ページなんですけれど、現状の所で○の四つ目の自動車の燃費向上とも相まってという所で、エコドライブ講習会を年 2 回開催とあります。エコドライブの推進は大切なことだと思うんですが、22 名が参加ということで、非常に少ないなと思いました。例えば、エコドライブの講習でしたら、環境教育がよく学校と連携するように、自動車教習所などと連携し、そこに資料とか教材を提供するとかして、10 分でも講習に必ず入れていただくと効果的ではないかと感じました。それが一つです。</p> <p>あと 4 ページですが、家庭での省エネ型設備、機器等の導入の中の主な取組みの中に、住宅の省エネ化の促進というのがあります。住宅は非常にエネルギーを消費するものなので、取組みが大切だと思いますが、リフォーム等は大切とわかりながらも、ハードルが非常に高いというか、お金も非常にかかるので、その啓発をすることも非常に大切なんです。もう少し日常の工夫や簡単な取組みで断熱性能を高めることができるとか、そういったアイデアや情報の提供、ある意味環境教育だと思うんですが、もう少し具体的に取組むことも考えてはどうかなと思っています。同様にそのページの一番右下の課題の所に緑のカーテンということがありますがけれども、緑のカーテンというのは、やはり朝晩水をやるとか、手間もかかるので、生活に余裕のある、時間に余裕のある人しかなかかなか出来ないことでもあるんですね。ですので、必ずしも緑のカーテンではなく、例えば、簾であるとか、簾が似合わないマンションなどでしたら、洋風の簾とか、布を使った日よけのようなもの、オーニングとかいろいろある</p>
-------------	--

	<p>んですけれども、そういったものを提案して、こういう所で手に入るとか、具体的に分かりやすく情報を提供していくことを考えていってはどうかかなと思っています。</p>
<p>大山次長</p>	<p>ありがとうございました。一点目の県政世論調査の中で環境教育とか情報提供とかは、委員さんのおっしゃるとおりですので、今後、具体的なイメージが湧くように例示を挙げるなど、工夫してまいりたいと思います。</p>
<p>秋山環境政策課長</p>	<p>エコドライブの講習会ですが、運転免許センターで実際の講義と電気自動車を使って、環境に優しい自動車を体験していただくということで行っております。実際、電気自動車を使用するというのもあって、参加人員が限られているということで、非常に少ない人数でございます。委員、御指摘のことも今後研究をして、検討していきたいと考えております。それから、住宅の省エネ化の推進ということでございます。おっしゃるとおり住宅の省エネ化というのは非常に重要でございますし、今回、国の補正等に伴いまして、エコポイントの復活ということで、エコ改修とかにも助成がされるということになっております。県でもうちエコ診断という形で実際に、地球温暖化防止活動推進員が相談に乗って30分くらいかけてかなり細かいことまで診断して、どういうふうに改善すればどれくらい省エネ効果があるとか、そういったことも行っています。今年度開設しましたかがわ省エネ節電所の中でも、こういう方法で行えば、これだけの効果があることを、わかりやすく省エネに取り組んでいただくということで行っております。それについても、来年度さらにより詳しく、子供にも分かりやすく解説し、皆さんにそういう取り組みをしていただけるような工夫もしていきたいと考えております。緑のカーテンに関して、簾とかそういうものも、うちエコ診断や省エネ節電所の中で、項目等として入れまして、効果についても説明し、さらに普及啓発されるよう取り組んでいきたいと考えております。</p>
<p>妹尾委員</p>	<p>ありがとうございます。かがわ省エネ節電所というのは、一度テレビで紹介されたのを見て、何か面白そうだなと思って、私も一度だけ見たんですけども、そういうのをすっかり忘れておりました。やはりホームページに入って、きちんと見ていくというのは、余程意識が高い人でないとなかなか入っていかないのかなといつも思いますので、この存在を例えば、学校の先生の皆さんが知っているのかとか、そのあたり環境教育との関連でここに行けば、さぬきっ子というのがありますけれども、さらに具体的な情報がありますよということを併せて情報提供していけばいいかなと思います。そういう意味でも、環境学習と情報提供を分けていいのかも、考えるところであります。</p> <p>同じページで、少し言い忘れたんですが、課題の一番上の所で、省エネ診断や建築の専門家による住宅相談を実施する必要があるとありますけれど、省エ</p>

秋山環境政策課長	<p>ネ診断と耐震診断というのは連携されているのかな、それぞれ別々であると思いました。相談を受ける側もする側もかなり煩わしいかなと思いますので、環境政策課で行うことは耐震ではないのかもしれませんが、連携して、無駄なく、なるべく多くの人に経験していただくことが大切かなと思います。</p>
	<p>かがわ省エネ節電所につきましては、小学校とか中学校にもパンフレットを配りまして、子供に持ち帰っていただいて、家で親と一緒に取り組んでいただけるように周知を図っております。また、省エネ節電所につきましては、確かにお年寄りの方とか、サイトに入っていくのは、なかなか難しいということで、チラシにその取組項目や効果を記載して、それに○をつけてもらうことによって、ウェブ上でなくても参加できるようにしてございまして、今後できるだけ多くの方が取り組んでいただけるよう工夫していきたいと考えております。住宅の診断の関係ですけれども、省エネと耐震といいますと、専門性がかなり異なるのと、耐震性につきましては、実際の建物の構造とかそういうことを踏まえて判断する必要がありますので、なかなか難しいとは思いますが、そういうことが一緒にできるかどうかも含めて、検討させていただけたらと考えております。</p>
金子委員	<p>資料7の県政世論調査の結果の問題ですけれども、3,000人という非常に多数の方を対象に行っておりますので、私は、もっとこれをちゃんと分析される方がいいだろうし、今後のアンケートの取り方に対する県側の配慮というのにも必要かなと思います。具体的に見ていきますと、例えば、14ページのところの表の左から二つ目のところに、再生可能エネルギー設備の導入の支援という項目がありますが、年齢別の所で、その数字を上から見ますと、傾向的には上の方が多くて、年齢が進むに従って、下がるという傾向が読み取れます。同様なことが、私にも関係がある23ページの表の左から二つ目の絶滅のおそれのある野生動物の保護についても、年齢層が若い所が高く、年齢が進むに従って落ちてくる。26ページは瀬戸内海の環境保全の問題ですが、これも二つ目に沿岸域の環境の保全、再生、創出がありまして、これも若い層から、次第に年を経るに従って、その割合が減っていく訳です。ところがサンプリングのサイズというのは、50から59が254、60から69が373、70以上が360ということで、年齢層としては、いわゆるお年寄りの方に回答者数が多い訳で、全体的にはお年寄り層のサンプリングのデータが高い。ところが先程見たように、年齢の若い所が高いという項目もあり、その年齢層のサンプリングについて考慮しないと、この出てきたデータを平均値として香川県民の意識だというように言っても、実際に香川県を形作っていくのは、若い人たちである訳ですから、そういう年齢層を考慮したサンプリングの方法とか、その評価ということをししないと、折角のデータが分析不十分で、行政だけのことになってしまうのではないのかと、そういう危惧を持ちました。</p>

勝浦委員	<p>アンケート調査の所で、私も感じたんですが、その他の所の意見がどのような意見であったか、少しでも参考に入れたらいいのになと思いました。それと、難しい言葉には、例えば、リユース、リデュース、リサイクルとか、デポジットとかに注釈が必要かなと思います。</p>
大山次長	<p>確かにおっしゃるとおり、注釈等をもっと気を付けて入れるようにしたいと思いますし、環境基本計画等を作成する時にも、最終的に用語解説のようなものを付けていきたいと思います。</p> <p>アンケートの年齢層の部分は、無作為抽出で行った結果ですが、今後、どこまでそういう配慮ができるかというのは検討したいと思います。</p>
金子委員	<p>無作為だと言っても、このサンプルサイズで無作為だとしますと、年齢層が高い方が回答者が多いということですよ。ということは、何をもって、無作為としているのか、何を無作為の基準に置こうとしているのかということが、はっきりしない。要するに、回答した人からサンプルを単に無作為に抽出しているとするんですね、元々、そのアンケートを出したところに問題がある。このような数字が出てくるところに問題がある。</p>
増田部会長	<p>金子先生、少しよろしいでしょうか。アンケートはどの世代にどれだけ送ったらどれだけ返ってくるか回答率にもよります。</p>
松本委員	<p>基本的に、若い人よりも年寄りの方がよく回答してきますから、自然とそのようなになってくるんですね。最初から年齢別にアンケートを取ろうとしたら、世論調査にはならないんです。ですから、無作為抽出で、出てきた回答から若い層の意見を知りたければ、クロス集計を別な形でかけていく、そういったところを引っ張り出すしかないんですね。だから、このように出てきたから、問題があるというのは少し気の毒です。</p>
増田部会長	<p>世代別の回答分布も出てきていますから、回答結果から何を読み取るかということだと思います。</p>
松本委員	<p>後は、クロス集計を行うためには、アンケートをした数がある程度ないと、これがこの年代の意見だというように使っていけるのかどうか、非常に難しいものになっていきます。だから、一般的な世論調査としてこのようなものがあるということまで理解をしていかないと大変なんじゃないかと考えました。</p>
増田部会長	<p>郵送で 3,000 出して、50%の回答というのは、ものすごい回答率だと私は思っています。回答結果をどう読むかというところを、金子先生が言われたようなことも配慮して、クロス集計も世代別なり、性別なり、職業別も出ているよ</p>

<p>松本委員</p>	<p>うですから、その辺をどう読み取って、次の計画にどう反映させるかということをし少し踏み込んで行っていただけたらと思います。</p> <p>計画の現状について、私たちは過去5年間分を見ていくんですが、この時期は、経済活動が非常に停滞していた時期からやっと回復していくような変化の時期ですよ。そうすると、炭酸ガスの量も、経済活動やいろいろなものにかかなり影響されていたと思うんですね。エネルギー問題とか特に石油の問題が炭酸ガスの量的なものに大きな影響を与えていたと思うんです。これから、次の5年に向けて案を考えていく訳ですから、当然そういったものが影響してくるんだらうと思うんです。それでこの現状と課題を見ていった時に、時系列の問題で抜け落ちているものがないか、こういう環境のもと、つまり経済状況のもとであったから、こういう数値が出るんだから、次は過去5年の経済状態とはかなり違った形で動いていくだろうと予想できると思うんですね。そうすると、それを考えた時に、どういう展望をもって、特に二酸化炭素の減少を図るためのものとは何だろうかということ相当考えないとできないだろうと思うんです。だから次の計画期間の時には、その辺の所を相当しっかり案の中に盛り込まなければいけない視点ではないかというようなことを感じます。そういったところからの見直しは、多分、これから5年のところで見ると、一つのポイントかなと考えますので、御注意いただけたらいいのではないかと思います。</p>
<p>川田部長</p>	<p>松本委員のおっしゃるとおり、今回、三つの計画の見直しをお願いしているんですが、地球温暖化対策推進計画は、エネルギー、原発の関係によってかなり数値が変わりますから、本当にCO2だけで指標をとっていいのか、それともその他そういうものに関わりなく何か量っていくものを新しく指標に置くべきか、そこは考えていく必要があると思っております。廃棄物処理計画につきましては、経済状況が活発になりますと、どうしてもごみがたくさん出てくることもありますので、この後、骨子や素案を出す中でそのことも皆様方の御意見を参考にしていきたいと考えております。私どもも、単純にこれまでの傾向ではなくて、今後、こういった社会が予想されることも念頭に置いて、この後の指標については考えたいと思っております。</p>
<p>妹尾委員</p>	<p>質問になるかと思うんですけれど、資料5の7ページに1人1日当たりごみ排出量で、直島町、小豆島町、土庄町がすごく多いということがありましたけれども、これは観光客が多いとかいうことには、全然関係ないのでしょうか。観光客が出したものを、住民だけで割っているとかそういうことはないのでしょうか。</p>
<p>三好廃棄物対</p>	<p>そこまで確かなのかどうかは分からないんですが、一つは島しょ部の三町は、</p>

策課長	やはり民間の収集処理が少ないので、そのことで結局、町が回収して量が多くなっているんですとか、事例を挙げますと、学校給食の残渣などは、本土側の学校だと、食品リサイクルの関係に回っていたりするんですけども、それらも焼却処理がされているというようなことも排出量が多い原因の一つかなという風に考えております。
妹尾委員	観光客は関係ないということですね。
三好廃棄物対策課長	例えば直島ですと人口 3,000 人のところにあれだけたくさんの観光客が来ている訳ですから、影響はあるかも知れませんが、どちらかという、そういうことよりは、やはり民間でリサイクルの方に持っていかれるものが少なくて町が回収する量が多い。事例として、先程言いましたように、給食の残渣も全て焼却処分しているというようなことが、一つの要因かなとは考えております。
妹尾委員	今、伺って、生ごみ系が多いということでしたら、何か、もう少しコンポスト化するとか、生ごみであればリサイクルの方に回せることも考えられたりしているんでしょうか。
三好廃棄物対策課長	そうですね。今回、課題として、ちゅう芥類の対応に取り組む必要があると思います。先程の観光客の話ですけども、各市町にヒアリングした中では、土庄町、琴平町も観光客の数が人口に対して多いということも一つの要因かなという話はいただいております。ただし、数値的にどうかということは出せておりません。
妹尾委員	そういう疑問を持ちましたのでお聞きしました。純粹に何かごみをいっぱい出していると言われると、確かに心外ではないかなと思ったものですから。
増田部会長	芸術祭を実施した年かそうでない年もありますし、民間の店頭回収が全然入っていないみたいな話があると基になる分母の数字が違うので、いきなり比較できないんですね。いきなり、島の三町がごみが多いみたいな数字が出ると、非常に問題なんです。本当にそこで生活している人がごみを出しているのかといえば、否、実際はそうではないんだったら、どういうデータでこういう結果が出てますという事実が出ていない訳ですよ。全体としては、ごみを減らしていくことを目指している訳ですけども、ここが多いというのではなくて、やはり総量をいかに把握すること、民間が回収しているものも何か把握して、総量で比較していくことが必要かなと思います。ここが悪いみたいなデータだけが独り歩きするとまずいかなと思います。
妹尾委員	今の話を伺いながら、例えば先程のアンケートでリサイクルに取り組んでい

	<p>るとかいないとかという質問への回答が、この問題になった町の住民で、もし何百人かいるのであれば、比較したりすることも少し興味深いかなど思ったりしました。その辺できるかどうかわかりませんが。</p> <p>資料3の2ページの森林整備の課題の所に放置竹林対策を講じるということがありますけれども、里山の問題で竹林問題があるという話をあまり知らなかったものですから、それがどの位深刻なのかとか、もしそれを改善しなくてはいけないとしたら、その竹を利用して、例えば燃料にするとか、竹炭にするとか、竹の箸にするとか、教育として自然体験に活用するとか、いろいろな事例があるのかなと思うんですが、そういうことに利用される予定とか、状況はどのような感じなのか教えていただけたらと思います。</p>
川田部長	<p>現状で言いますと、香川県の森林面積に占める竹林の割合は、全国で2、3番目に多い。ですから、山に占める竹の割合が非常に多いのが、本県の山の状態です。竹がかなり伸びるとやはり山が荒廃する、少し大ざっぱな表現ですが、そうっております。それと、利用の関係は、県の方でもいろいろとモデル的に行っているんですけども、現状では、採算性とかの面で課題がございまして、製品にしようと思えばできるけれども、コスト的に合わないとかいう課題がございまして、うまく回るような仕組みができていないというのが現状でございまして。</p>
増田部会長	<p>今、みどり整備課の方で里山の整備について協議会も作っております、私、座長をやらせていただいているんです。</p> <p>昔は、竹林でタケノコを取り、塩田でも竹を使い、あるいは漁業でも竹の筏を使う。タケノコを取る時には、竹林を抜げるのに苦労するほど採るから、竹林が抜がらない。今は、竹の代わりにプラスチック製品があるし、タケノコは中国から輸入しますので、竹林を持っていた方が、もう40年位前から、自分の持っている竹林には全く行かなくなった。その頃から、竹林が抜がりだしたんですが、竹が抜がると他の樹木が全部やられてしまいます。竹一色になってしまう。</p> <p>竹自身も、平地で地下茎を張って地震に強いというんですが、根が浅いんです。斜面で少し浸食があると、古畳が滑るように土砂崩れを起こすんですね。2004年の大豪雨の時も、竹林が拡大したところでかなり土砂災害が起きました。竹林の拡大というのが、日本人がかつては竹を栽培して、タケノコを取り、竹を使っていた。それが手を入れなくなったために、あちこち山が荒れているというのは、日本中の大問題で、香川県もその例外ではないというか、その先端を行っているようなところがあります。高知県や京都大学の先生にも来ていただいたりして、実際に試験地を作ったりして、それからボランティアで竹を伐って、広葉樹林に戻していこうという取組みも、面積は少ないですけども、行っていますので、それを更にもっと積極的に進めていってくださいという、</p>

妹尾委員	<p>そういうことです。</p> <p>竹の話はこれから意識したいと思います。</p>
増田部会長	<p>資料3の都市緑化の推進の所で、都市公園の整備の話が出ていますが、私の持論ですが、アンケートでも都市公園や森林公園などの適切な整備という所がありました。皆さん、そこに峰山公園というのがございますね。南の方に公渕森林公園というのがあります。同じように森林があつて、芝生広場があつて、この違いが分かりますでしょうか。峰山公園は高松市の都市公園です。公渕森林公園は都市公園ではありません。県のみどり整備課が関与の農林関係の公園です。満濃池のところに国営まんのう公園がありますが、あれは国土交通省所管の都市公園です。池の反対側に香川県満濃池森林公園というのがございます。香川県の環境森林部が関わっていますが、実は、都市公園面積に入っておりません。都市公園面積は、一つの公園整備の基準ですけれども、例えばまんのう公園が一昨年全面開園しましたけれども、全部自然林であり、森林公園です。公渕森林公園周辺よりもっと山という感じの所です。</p> <p>丸亀市は、非常に都市公園面積が大きい。なぜかと言いますと、綾歌町と合併して綾歌森林公園、195ha全部都市公園にしました。でも森林公園です。丸亀市は公園面積がいいかという、街の身近な公園は少ないんですね。実は、丸亀市のみどり基本計画の中で申し上げたんですが、都市緑化というところで、都市公園面積が出てきた場合には、例えば、公渕森林公園は含めていいと思うんですね。</p> <p>それと、公園として市民が使うもっと小さなちびっこ広場みたいな、住宅地から歩いていけるような身近な公園の整備はどうですかという、ここで言うよりは、自然環境部会の方になるんですかね、分かりませんが。</p> <p>前から言いたかったのは、この都市緑化の所で、都市公園面積だけが、指標として出てくるんですね。これではいかんだろうということで、何かその公園についてどういう風に県としては整備しているのか、都市公園でない公園というものもありますし、市民、県民から見て、どんな公園整備をしていったらいいかという視点でいくと、多分違う整備の仕方もあるかなと。満濃池森林公園を含む森林公園も峰山公園も一緒ですという形で整理すれば、もっと増えるんですよ。あるいは、身近な、街中の身近な公園になると多分もっと少ない、足りないということも出てくるとお思いますので、そういうことも踏まえた都市緑化という公園整備みたいな指標にしてもらいたいかなと思います。</p> <p>他に、御意見はございませんでしょうか。栗田委員さん、何かございませんでしょうか。</p>
栗田委員	<p>特にありません。</p>

増田部会長	いいですか、竹内委員さん。
竹内委員	<p>先程の竹林に関しましては、今、御回答をいただきましたが、経済同友会とかいろいろな団体で調査もしてみたんですが、非常に経費が必要になりますので、全部頓挫したような状況です。これを今後どういう風に向けていくかというのを今も検討中です。それと、資料3の5ページの有害鳥獣対策の推進という所で、少しお聞きしたいんですけども、今、イノシシがすごい数で増えているということで、それを狩猟する方の人数が足りないということなんですけれども、道の駅なんかでよくイノシシ肉を商品として売り出していますけれども、あれは、一つの基準みたいなものはクリアしているのかというのと、それだけ増えていくのであればそれを逆手にとってある一定の流通ルートに乗せて、香川のジビエとして売り出すような方向も考えてはいいのではないかと考えております。すでに高松でも何軒かイノシシステーキなどを出す店が出来ております。それから、カワウとかハトについての記載が掲載されていないんですが、これらの被害は、過去よりは減少しているんでしょうか。</p>
大石みどり保全課長	<p>ただ今、御質問をいただきましたように、イノシシを駆除する一方で、肉を活用するために道の駅などで販売されている事例が、ジビエの促進ということで増えているように思います。その処理につきましては、販売するとなれば食品衛生法等で、一定の基準を満たさなければ販売できないようになっておりますので、そういうルールの上で流通が進んでいると考えております。</p> <p>それと、カラスとかカワウの生息数でしょうか。</p>
竹内委員	<p>ピンポイントでカワウのことなんですけど、カワウの被害が増えているという所が増えていますので、そのあたりの対策について教えていただけたらと思います。</p>
大石みどり保全課長	<p>カワウにつきましては、特に淡水魚とか、海の漁業資源についての被害が多いということで、有害鳥獣駆除の形で、被害が多い所につきましては、猟友会の協力を得ながら駆除します。洗濯物が汚れるとかいう生活被害がある所につきましては、地域の住民で追い払いをしていただくとか、できるだけその住宅周辺でコロニーが作れないような環境作りに努めております。</p>
竹内委員	<p>里山の一部が鳥の糞でだんだん枯れていってしまっているというような被害が多く見受けられますのでよろしくお願いします。</p>
中須委員	<p>全体を見て、私も全くの素人ですので、いろいろ言葉が分からないことが多々ありました。パークアンドライド駐車場とか。いろいろ検討していただいて、言葉について、いろいろな人が分かりやすい文言で検討出来たらなと思いまし</p>

	<p>た。</p> <p>それから、学校教育に関して、地球温暖化やエネルギーをテーマにしたさぬきっ子環境スタディや節電に関する教材を配っていただいたりして、それが大変役立っていますので、それが意識を高めたり、地域住民の意識高揚につながっていると思います。緑のカーテンですが、私の学校も今年応募しましたが、見事に外れました。でも学校や地域で取り組むことによって、家庭の方にも還元しているように思えます。ですから、何か省エネとか、あるいは緑のカーテンのコンテストとかの取組みを、もう少しアピールしていただけたら、学校やいろいろな事業所で、それに応募することによって、子供とか家庭にも影響を与えたいと思いますので、どんどん進めていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。</p>
石川委員	<p>具体的なところは、もうありませんが、全体的な話で、環境についてもっとリサイクル率を高めるとかあったんですけども、産業経済活動との関連性もありますし、先程、増田先生もおっしゃったように、竹林の話、防災の話とも関連してくるというので、単純に環境のことだけではなく、課は変わるかもしれませんが、他の専門分野とも連携しつつ考えていっていただきたいなと思いました。</p>
増田部会長	<p>皆様に御意見をいただいたらと思いますので、他にありましたらどうぞおっしゃってください。</p>
勝浦委員	<p>パークアンドライドのことで、どの場所にあるのか知りたいので、また、教えていただけたらと思います。</p> <p>それから、資料3の県民の環境配慮行動の促進の中に、グリーンコンシューマーかがわを中心に環境にやさしい買い物運動を推進しているとあります。グリーンコンシューマーかがわの会員として頑張っているんですが、協議会ですので行政の手を離れているというようにはお聞きしているんですが、出来ましたら、少し行政の力を入れていただけたらと思っています。</p> <p>それから容器包装リサイクルの研修が東京で年に一回あるんですが、12月に行ってまいりまして、その時に、リユースを促進したいとおっしゃったものですから、それについて一番いいのは、一般人がリユースするのはなかなか難しいので、学校の給食のリユースを進めるのが一番いいんじゃないかと思います。講座に行かせていただいている時に、学校にいろいろお聞きしたりすると、結構、率が高かったんですね。それで、最終的にリユースについてお聞きしましたら、香川県はやはり高く、89.3%がリユースをしているということで、これを県としての目玉みたいな感じで、もっと進めていただければいいなという風に思っています。学校教育の場でさせていただくことが多いんですが、その時にできたら、参観日と一緒にしてもらえよう、学校にもお話しをしてい</p>

<p>増田部会長</p>	<p>かなければと思います。一、二度程、参観日に実施したんですけれども、やはり若いお母さんに来ていただきますので、話ができるかなと思っております。</p> <p>3月には、基本目標や施策体系などを検討しますので、その機会に事務局に意見を言っていて、案にまとめるまでに、整理していただくということをお願いします。</p> <p>それでは、委員の皆さん、御意見ありがとうございました。これをもちまして、本日の質疑応答、審議については終了させていただきます。それでは、事務局に進行をお返しします。事務局から何か連絡事項はありますか。</p>
<p>司会 (豊島副課長)</p>	<p>先程、今後の部会等のスケジュールについて、御説明いたしました。3月の計画部会につきましては、日程調整をさせていただき、部会長と相談の上、御案内させていただきますのでよろしく願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、香川県環境審議会計画部会を終了します。</p> <p>本日は委員の皆様方、長時間にわたりありがとうございました。</p>